

令和6年度 日野市立潤徳小学校経営重点計画				自己評価シート				令和7年3月公表			
★学校教育目標				敬愛・自由・勤労 ◎考える子 ○はたらく子 ○心ゆたかな子 ○健康な子				★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）								令和5年度には、開校150周年を祝うため、代表委員会や集会委員会等を中心とした様々な児童主体の行事やイベントが実施された。令和6年度は、第4次日野市学校教育基本構想による新たな教育が始まることに伴い、全校児童が関わる取組として、潤徳小「子供たちがつくる学校プロジェクト」を学校経営の柱とし、児童主体の企画等を一層充実させる。 また、日々の授業においても、児童相互の学び合いを中心とした「子供たがとつくる学習」を推進する。			
【目指す児童・生徒像】				笑顔いっぱい、元気いっぱい、やる気いっぱい、潤徳の子							
【目指す学校像】				笑顔招福～SMILEFUL 潤徳小～							
【目指す教師像】				「できない」ではなく「できるためにはどうするか」と考える教師 地域にある学校として、地域を愛する教師 自らの職務と使命の重さを自覚した「プロ意識」の高い教師 「潤徳愛」とチャレンジ精神にあふれる教師							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標		評価点			成果指標	
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	潤徳小「子供たちがつくる学校プロジェクト」の推進	・児童自身が、学校生活をよりよくするための活動を考え、実践する取組を推進する。 ・従来の形式にとらわれな い、児童の発想を生かした新 たな行事やイベントを創造す る。	・委員会活動、クラブ活動、たて割り班活動等において、児童が主体的に活動を企画し、学校をよくするための取組を実行する。 ・「中央委員会」を新たに発足し、プロジェクト推進に向けた横断的な取組を行う。 ・令和6年度「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」における「学校企画・提案型」実施校として、東京都教育委員会と連携し、児童主体の新たな音楽会を実施する。	3.4	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	「MJコンサート」を拝見し、子供たちがつくる学校プロジェクトが推進されていることを肌で感じた。子供が生き生きと活動していて、「MJコンサート」だけでなく、各行事で子供たちが活躍する企画がたくさんあるのだらうと感じた。益々、児童の強みを生かせる活動が生まれることを望む。	東京都教育委員会が推進する「笑顔と学びの体験プロジェクト」実施校として明星大学学友会吹奏楽団とコラボレーションした。実行委員会を中心とした新たな音楽会を創造することができ、第4次日野市教育基本構想である「子供たちがつくる学校プロジェクト」にもつながる活動であった。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
	保健衛生や安全に気を付け、体を鍛える児童の育成	○児童の健康や安全を守るための取組を推進する。 ○食に関心をもち、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける児童を育成する取組の充実を図る。 ○運動に継続的に親しみ、体力向上を図る取組を推進する。	・手洗いの習慣化や換気の励行による感染症予防、夏季のWBGT数値測定による校外活動の実施の判断等の取組を徹底する。 ・生活安全、交通安全、災害安全に関わる教育を組織的・計画的に実施する。 ・栄養士や食育リーダーを中心とした、計画的・継続的な食に関する指導の推進する。 ・体力向上月間を3回設け、計画的に児童の体力を伸ばす取組を推進する。	3.2	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	新型コロナウイルス感染拡大については、落ち着きが見られるが感染症が無くなった訳ではない。今後も手洗い、うがいの励行等感染症対策を怠らないでほしい。また、新型コロナウイルス拡大によって低下したであろう体力回復の取り組みを今後も継続してくれることを望む。	体力向上のために、体力向上月間を年に3回設定した。1学期は、昨年度の体力調査の結果を基に、「ソフトボール投げ」を重点目標に設定した。体育委員会を中心として、ソフトボール練習道具を作成したり、当日は大谷グローブを使ったりと子供たちが積極的に取組めるような活動とした。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	「子供たちがつくる学習」の追求	○学び合いを通して探究する児童の育成を図る。 ○一斉学習、個別学習、協働学習の学習場面に応じて、ICT機器や図書資料を効果的に活用する。	・校内研究を通して、自ら学習課題を決定し、コミュニケーションツール等を用いて学習を深めることにより、主体的に学習を続け、探究することができる児童を育成する。 ・写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作や発表を通して、プレゼンテーション能力を育成する。 ・端末上で互いの意見を交流し、対話を通して自らの考えを深める協働的な学びを推進する。	3.1	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	一人1台学習用端末の活用が活発に行われていることが分かった。これからの時代を考えると検索機能だけを使用するのではなく、話し合い活動等多岐に渡り使用しできる児童の育成に尽力してほしい。そのことにより、自らの意見を再構築したり、互いに納得したりできる関係性ができるとことを望む。	校内研究では「子供たちがつくる学校（学習）プロジェクトの推進～学び合いを通して探究する児童の育成（複線型）」とし、研究を進めてきた。2050年の教育を見据え、多様な学びができる授業スタイルを実践した。今後は、成果と課題を生かし、児童が主体的な学習が行える一助としていく。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
	児童一人一人に徹底的に関わる指導の充実	○児童一人一人の状況に応じた適切な指導と必要な支援の充実を図る。 ○関係機関、専門家との連携による組織的な取組を推進する。	・児童の学習のつまずきをそのままにしないための、習熟度別指導の充実及びリソースルーム、学力向上支援者等の活用を図る。 ・ステップ教室、せせらぎ教室、わかば学級等との連携による一人一人の児童の状況に応じたきめ細かい指導を実施する。 ・校内支援委員会で情報と対応の共有化を図り、エール、子ども家庭支援センター、児童相談所等との連携による多面的な支援を行う。	3.1	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	1	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	日頃から個々に応じた対応ができていえるように感じる。保護者にとって、相談しやすい環境なのではないかと感じている。今後も児童一人一人を大切に個を尊重した指導が行われていくことを望む。また、ステップ教室やリソースルームでの対応が丁寧に行われていて、そこで自信を付けている様子が伺える。	児童一人一人の状況に応じて、リソースルームやステップ教室、せせらぎ教室、わかば教室など、多様な支援が受けられるように組織的に個別的な働きかけを行った。また、学力向上支援者やSCを適宜必要な学級に配置し、より組織的に児童に寄り添った教育ができるようにしてきた。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
社会と未来に関き、みんなでつくる	特色ある学校づくり支援事業の推進	○「Jyuntoku Dream Teacher's Academy」による教職志望の学生の育成	・近隣大学等と連携し、教職を目指す学生の受入れを積極的に行い、校内のOJTを機能させることで、対象の学生に教職に必要な基礎的な知識・技能等の素地を養う。 ・学生を学力向上支援者、移動教室臨時補助員、学校プール外部補助員等に任用し、実践的な体験を通して、教職への理解を深める。	3.3	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	教員、保護者、地域だけでなく、近隣の大学生との交流は、児童にとっても学生にとっても刺激があり、大変素晴らしい良い取組みだと感じた。明星大学との「MJコンサート」では、各学年趣向を凝らした学生との掛け合いが見られ、児童と学生が互いに距離を縮めてきたことを感じることができた。	特色ある学校づくりとして「Jyuntoku Teacher's Academy」を推進した。学力向上支援者は、将来教員を希望している学生である。学生からは「児童の姿だけでなく、現場の先生方の様子を知る絶好の機会である。」との意見が聞かれ、推進してきた成果を感じることができた。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
	地域を巻き込んだ教育活動の推進	○教科横断的な活動を通したSDGsの取組を推進する。 ○地域関係者等と連携した体験活動を推進する。	・「SDGsカレンダー」に基づいた計画的かつ教科横断的な取組を推進し、児童が17のゴールを意識して活動できるようにする。 ・地域関係者や行政と協力した環境保全や体験活動の取組を推進する。そのために、浅川等での自然観察、近隣の商店街、農園、施設等の訪問を通して地域について考える機会とする。 ・地域を学習材とすることで、地域を愛し、将来にわたって地域を支える人材の育成を図る。	2.7	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	2	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	2030年までの目標達成を目指し立てられたSDGs目標だが、ここ最近では、停滞しているように感じる。学校でもSDGsを意識した活動ができると良いと感じる。また、学校の周りの豊かな自然環境を生かした活動に取り組んだり、他校との連携を深めたりする活動を計画していってくれることを望んでいる。	借りていた田んぼが土地の開発により使用できなくなったり、校舎北側のビオトープ周辺にはスズメバチが生息したりと従来行っていた環境学習がしにくい状況となっていた。その中で、5年生はバケツ稲に挑戦した。今後も児童の安全に配慮した豊かな体験活動を実施していく。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。